

<活動の概要>

2020 年度は、新年度当初より COVID-19 対応により、オンラインでの授業や業務が中心となった。そのため、産業文化研究センター（RCIC）としても、感染症対策を前提とした業務体制や環境の整備を行なった。また、今年度実施予定の 2 つの共同研究については、今年度実施が困難となり、2021 年度へと繰り越しとなった。一方、この機会にオープンハウスや Ogaki Mini Maker Faire、IAMAS2021 など大きな事業がオンラインによる実施となり、スタッフはオンラインでの事業実施のスキルや運営の経験を積むことができ、来年度以降オンライン化への対応がスムーズにできるようになりつつある。今年度は RCIC での研究（2 つのスタディ）について、教員・スタッフが本学紀要にて報告した。COVID-19 により自治体や企業などの事業が困難になっているが、来年度新たな受託事業を加え、2 つの事業を実施へ調整した。

個人研究に関しては、科学研究、共同研究、および個人研究の成果の一部を国内外の学会にて発表した。また、3 つの学術誌での査読論文をはじめ、紀要や概要集などでも掲載された。また、海外にて著書が出版された。

学内プロジェクト研究に関しては、今年度から始まった「コミュニティレジリエンスリサーチ」の代表として運営を行い、IAMAS2020 で展示を行ない、活動をまとめた。「ライフエスノグラフィ」は分担者として、県内酒造会社との共同研究の調整役を担った。その成果は IAMAS2020 の展示として発表した。

<学内での活動>

1 産業文化研究センター (RCIC)

2020 年度の業務に関しては、年度当初より COVID-19 の感染拡大により、スタッフの在宅勤務や RCIC 管轄の施設における飛沫感染防止対策など対応を迫られた。また、大学全体の飛沫対策に対して積極的に協力を行なった。このような状況下、対面ベースの事業が困難となり、今年に予定していた共同研究や委託事業などは中止、あるいは、来年度へと繰越しての実施（予定）となった。そのような状況下でも、今年 4 年目となる「イアマスこどもだいがく」は、予定していたワークショップを対面からオンラインへと変更し、2 つの新しいオンラインワークショップを実施できた。担当スタッフはオンラインでのワークショップは未経験でありながらも、回数を重ねながらアップデートし、最終的には参加者たちに評価された。RCIC の 2 つの研究事業(サイン計画スタディとこども大学スタディ)に関しては、担当教員とスタッフが研究成果をまとめ、情報科学芸術大学院大学紀要第 12 巻にてそれぞれ研究ノートとして報告していた。今回のイアマスオンラインこども大学はこの中で報告されている。

多様な科学技術研究を学ぶことと県内の研究機関の研究者とのネットワーク構築を目的として2020年より実施しているテクテク勉強会に関しては、2020年7月（岐阜高専 山本高久准教授）と2021年2月（岐阜県博物館 高津翔平学芸員）を講師に迎えてオンラインによる勉強会を開催した。特に岐阜県博物館での企画展示との連携で、博物館からオンラインライブ勉強会を中継することができ、多様な人たちに参加いただけた。

2017年より始めた「イアマスOBOG interview」も、今年度はCOVID-19のため、数回はオンラインでの実施となったが、全体としては例年と同様にインタビューを実施、掲載することができた。

これまで連携の打診があった岐阜県博物館や蔵元林本店とは、ライフエスノグラフィプロジェクトやコミュニティ・レジリエンス・リサーチとつなぎ、それぞれ教員学生らによる見学と意見交換会を実施するにいたった。蔵元林本店とは、共同研究として継続的に情報や意見交換を行なっている。

2 研究プロジェクト

(1) コミュニティ・レジリエンス・リサーチ

今年度はこれまで実施してきた根尾コ・クリエイションの後継プロジェクト「コミュニティ・レジリエンス・リサーチ」を実施した。年度当初はCOVID-19の影響から、現地でのフィールドワークを控え、オンラインを用いた方法により実施、夏からは現場でのフィールドワークへと移行し、最終的には25回のフィールドワークを実施することができた。特に、岐阜県内の水力発電所跡（上石津時集落）や採掘現場（大垣市赤坂）でのフィールドワークや、岐阜県博物館や多治見モザイクタイルミュージアム、春日森の文化博物館（揖斐川町）など関連施設での見学は、同じ地域での調査を比較したり、異なる視点で考えたりする上で貴重な機会となった。最終的には、レジリエンス思考に加え、新たに社会生態システムという視点を用いて、地域の変容を観察・分析することの必要性を見出した。今年の調査活動から、「分解」を中心的なコンセプトとし、「分解者」をテーマに調査結果を作品やパネルとしてIAMAS2021にて展示を行なった。

(2) ライフ・エスノグラフィ

今年度から始まった「ライフ・エスノグラフィ」プロジェクトは分担社として参加しており、今年度は岐阜県各務原の蔵元林本店と連携し、酒蔵や工場見学、杜氏や蔵人、経営者たちとの意見交換などを経て、学生たちが作品制作を行なった。林本店との連携および共同研究に必要な調整役を担った。

<個人研究や学外での活動>

3 研究成果の公開

(1) コミュニティラジオ研究

昨年終了した「コミュニティラジオがつくる震災の記録と記憶の可能性に関する研究」（科研基盤C 代表者）の研究成果を含む、これまでのコミュニティラジオの研究成果を海外で出版し、また、二つの学術誌で査読論文として発表した。特に、Springer 社から刊行された著書は、日本のコミュニティラジオ政策に関する海外で初めての出版であることから、海外の研究者たちからも評価を得ている。（下方の著書リスト参照のこと）

また、COVID-19 の感染拡大状況の経験を踏まえ、ケア・コミュニケーションを軸にケアメディアとしてラジオを位置付ける試論「ケアメディアとしてのラジオーコロナ禍に求められるケア・コミュニケーション」を本学紀要にて発表した。これを契機に、ケア理論をベースにしたラジオ研究を新たな研究テーマとして取り組んでいく予定。

(2) 伝統文化と表現

根尾コ・クリエイションプロジェクトをきっかけとして、古くから集落に伝わる盆踊りの継承に様々な形で取り組んでいるが、その一つとして3Dバーチャルを用いた新しい継承の形と方法に取り組んだ（小川科学技術財団助成）。制作した3Dバーチャルを用いた映像は、地元のCATV（CCNet）の協力を得て、番組にて放送し、またYoutubeでも公開し、新しい継承方法としてデジタルアーカイブ学会にて発表した。この発表をもとに、同様の研究者と別途情報交換する機会も得ている。この研究に関しては、来年度も継続する予定。

(3) 高齢者とメディア表象

先進国の多くが高齢社会となった現状から、海外の研究者と高齢者に関するメディア表象をテーマに研究を実施し、その一部を米国で最も権威のある米国ジャーナリズム&マス・コミュニケーション学会にて発表した。発表内容をさらに洗練し、英文ジャーナルにて論文として発表した。

4 学会発表や著書

<著書>

Tomoko Kanayama 『JSICR Book Series: Advances in Information and Communications Research Vol. 2 Perspectives of the Japanese

Media and Content Policies』 Minoru Sugaya 編 「Chapter 6. Community Radio Broadcasting」 pp.95-111, Springer 社, 2021

金山智子「災後・災間におけるコミュニティ放送による記憶の継承」『社会情報学』Vol.9(2):19-35 2021. (査読付)

Kanayama, Tomoko · Ogawa, Akiko “Collective Memories of Disaster through Community Radio: A Case Study of the Great East Japan Earthquake,” *Journal of Information & Communication Research*, Vol.38(2):67-80. 2020. 10 (査読付)

金山智子「ケアメディアとしてのラジオーコロナ禍に求められるケア・コミュニケーション」情報科学芸術大学院大学紀要第12巻, pp.110-119. 2021.3

Ji, Hong · Cooper, Anne · Kanayama, Tomoko · Gilliford, Eiko “Sakazuki, Kodokushi: Website Depictions of Japanese Seniors in the World’s Grayest Society “ *Keio Communication Review* 43 pp.23-42

金山智子「〈3.11 を心に刻んで〉」『3.11 を心に刻んで』岩波書店編集部 2021/2/11

金山智子「『今ここ』を見て、伝えていくこと」映画「空に聞く」公式パンフレット p. 10 2020

<学会>

Ji, Hong · Cooper, Anne · Kanayama, Tomoko · Gilliford, Eiko “Sakazuki, Kodokushi: Website depictions of Japanese Seniors in the World’s Grayest Society”, 米国ジャーナリズム&マス・コミュニケーション学会 第103回年次大会 (オンライン) 2020

金山智子, 小林孝浩, 伏田昌弘, 津坂真有「ネット時代における3Dバーチャルによる盆踊りの継承の試み：岐阜県本巣市旧根尾村の盆踊りを事例として」デジタルアーカイブ学会第5回研究会 2020年4巻s1号 pp.s49-s52 2020年10月18日

1 研究助成

「重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ」(公益財団法人小川科学技術財団 分担者)

2 その他、調査や活動

2020年3月に東日本大震災発生から10年を迎え、いくつかの関連書籍や映画などに寄稿した。また、FM いずなどのコミュニティラジオに番組出演し、研究成果をもとに防災やコミュニティラジオの役割について話す機会

を得た。これまでの研究活動を一般の人たちに向けて伝えることを通じ、社会的に貢献することができた。

3 その他 社会活動など

2020 年全国広報コンクール審査 審査委員

2020 年ぎふへの地方回帰促進キャンペーン事業 評価委員

一社) 社会情報学会 評議員 および 英文誌編集長

名古屋芸術大学 非常勤講師

さかの映像祭実行委員会委員 (デフムービー) および映画祭審査委員

特定非営利活動法人地域魅力 監事